

新宮山彦ぐるーぷ第2329回

行仙宿、補給路の橋台造り

◇実施日 10月24日(木) 曇り

◇参加者 梶野照雄、湯川一郎 2名

24日は晴の予報で、以後はしばらく天気が悪そうだった。雨ではモルタル工事ができないので、湯川君に声をかけ橋台のモルタル施工を行った。



よく流れている

砂は1.7kg越え

アンカーボルトを付ける

午前10時前に登山口着、砂4袋とセメント2.5kgなどをモノレールに積んだ。登山口水場のホースから出る水は極端に少なくなっている。上の水溜バケツは溢れているので、どこかが詰まっているようだ。フィルター部分を外してみると、排出側の直径5mmくらいの穴に木くずが詰まってい

た。これが原因でホースの水が出なくなっていたようだ。フィルター部分を外した状態でホースを繋ぎ直したが、ジョイント部の外径とホースの内径の差が大きく、すぐに外れてしまう。糸で縛って外れないようにしながら、少々不安が残る。ホースの内径に合うジョイントを探して交換したいと思う。

湯川君を乗せてコジマハウスに向かい、それぞれ砂を1袋担いで工事現場に向かう。砂は1袋が1.7kg強、背負子やザックを入れると2.5kgの重さがあった。



ブローアで掃除

モルタルを作る

完成

砂を現場まで運んで、デポしてある資材を確認する。砂利が4袋と砂が3袋あった。水も20日にポリタンク一杯を運んでくれていたので、あとはセメントを運ぶだけで済みそうだ。コジマハウス迄戻って、セメント(8.5kg)を運んだ。板を留めるアンカーボルト2本を鉄筋に縛り付け、モルタルを流し込めるように準備した。12時前になったので小屋まで行って昼食を摂る。小屋に着いてお堂や管理棟を開け、風通しを行う。落ち

葉が多く積もっていたので、ブロアーを出して小屋の周りを掃除した。昼食後、スコップとブロアーを持って現場に降りる。練箱で3回に分けてモルタルを作り鉄筋が隠れるように流し込んだ。持ってきた砂、約35kgは全部使ったが、少し足りなかつたのでデポしてあった砂を使って5kgほどのモルタルを作った。セメントは使い切った。鉄筋が隠れる高さまでモルタル施工が終わったが、型枠を外した後、高さの調整が必要だろう。必要な橋材料の長さを測ってみた。4140mmだった。結構長いので厚さを10cmと想定している。厚さ10cm、幅25cm、長さ4.14mの材木はかなり重いので、行仙宿南の数年前に根上がりした斜木を切って使おうと考えている。

スコップやブロアーを行仙宿に運んで物置に収納、湯川君は練箱を雨水タンクの水で洗って、再び現場に戻してくれた。



本日の参加者

下山中

送電線も見えず

コジマハウスまで降りてくるとガスが濃くなり、笠捨山も送電線も見えなくなってきた。まだ雨は降りださないが、2日前の天気予報とはかなり

変わってしまった。

行動タイム

10:00 補給路登山口 10:35 ↓ 10:50 コジマハウス ↓ 橋台の予定地 11:40 ↓ 12:43 行仙宿 12:30 ↓ 12:34 橋台の予定地 13:21 ↓ 行仙宿 13:31 ↓ コジマハウス 13:46 ↓ 14:05 補給路登山口